

故事成語 — 四面楚歌

楚の国の項羽と漢の国の劉邦が天下を争っていたが、楚軍が劣勢となり、漢軍に追いつめられていた。

項王の軍、垓下に壁す。

兵少なく、食尽く。

漢軍及び諸侯の兵、

之を囲むこと、数重なり。

夜、漢軍の四面皆楚歌するを聞き、

項王乃ち大いに驚きて曰はく

「漢皆已に楚を得たるか。」

是れ何ぞ楚人の多きや。」と。

楚の王項羽の軍は垓下に城壁を築いて立て籠もった。

兵力は少なく、食糧も尽き果てた。

漢の軍や諸侯の軍が、

この城壁を幾重にも包囲した。

夜になり漢の軍が四方で皆楚の国の歌を歌っているのを聞き、

項羽は大いに驚いて言った。

「漢はもう楚の国を全部占領したのか。」

なんと楚の人が多いことか。」と。